

課題名：野菜増産体制支援（ブロッコリーの産地育成）

ねらい

野菜生産の拡大を推進するため、野菜増産「1000ha」計画を推進しています。ブロッコリーは主要な品目となっており、関係機関が一体となって、地域課題解決を図るなど産地育成に向けた活動を行っています。

全県的な支援活動で、産地拡大・強化を図り、ブロッコリー生産者の所得安定・向上を目指します。

活動地域・対象

県内全域（全農とくしま 各JA 各農業支援センター・研究課等県機関 ブロッコリー生産者）

普及活動の目標

- 産地拡大・強化の支援 ①ブロッコリーの増産面積(県内全域) 77ha増加
②地域課題解決支援 2事例

目標に向けた活動概要

- 1 地域に適した品種選定のため、展示圃設置支援と現地検討会・成績報告会を開催しました。
- 2 相互課題解決を図るため、情報交換会を実施しました。
- 3 集中豪雨による浸水・湛水対策のため、県南2農業支援センター（阿南・美波）、研究課等と連携し、プロジェクト活動を行いました。生産者の意識調査、対策検討会、展示圃の設置等を行い、関係者に情報提供をし、地域課題解決支援を図りました。
- 4 地域での技術及び出荷予測の基礎データ蓄積のため、篤農家から聞き取り調査を行い、栽培・出荷状況のグラフ化と気象条件との関連を分析し、生産者に情報提供しました。（吉野川農業支援センター・JA阿波町との連携）
- 5 共通課題である育苗技術の向上及び広がり懸念される根こぶ病対策について研修会を開催しました。



情報交換会の開催



湛水後の様子(上)とMOX・尿素処理10日後の様子 <展示圃>



育苗研修会の開催

普及活動の成果

- 1) 品種選定に向けた展示圃（7カ所）の調査結果について情報共有を図りました。
 - ・初夏どり作型の適性品種について
 - ・厳寒期どり栽培の適性品種について
- 2) 情報交換会による相互課題解決と情報共有を行ってきました。（3回）
 - ・現状の課題や対策、今後の推進方策等情報交換
 - ・全農、JA、普及、研究等の連携強化

（平成27年4月上旬 現地検討会・情報交換会予定含む）
- 3) 集中豪雨による浸水・湛水対策のプロジェクト活動
県南2農業支援センター（阿南・美波）、経営推進課、研究課等と連携し、生産者の意識調査、対策検討会、展示圃の設置等を行い、対策や結果等を関係者に情報提供をしました。
- 4) 地域での技術及び出荷予測の基礎データの蓄積のため、篤農家から聞き取り調査を行い、栽培・出荷状況のグラフ化と気象条件との関連を分析し、生産者に情報提供しました。
- 5) 共通課題対策研修会の実施
 - ・県全体関係者（JA・県・生産者）の育苗技術の向上
 - ・根こぶ病の現状把握及び次年度対策技術の習得

以上のように、各地域の増産プロジェクトチームへの支援を図ることで、平成26年度産ブロッコリーの増産面積は、53.6ha増加しました。（県もうかるブランド推進課 推計含む）

地域課題解決支援では①集中豪雨に対する排水対策について、圃場の選定、明渠・暗渠の実施、大苗育苗の使用、スーパーセル苗の活用、湛水時のMOX・尿素の散布などの技術を組み合わせることで一定の効果があることがわかりました。②地域での技術及び出荷予測の基礎データの蓄積のため、栽培・出荷状況のグラフ化と気象条件との関連を分析し、生産者に情報提供し、栽培の見える化を図りました。今後もデータを蓄積していく予定です。

用語説明	スーパーセル苗：育苗後期から肥料を与えず水だけで管理することで、剛健な苗が育成され、苗保管の延長、良くない環境でも生育可能である特徴を持つように管理した苗のこと。 MOX：酸素供給剤の商品名（過酸化水素水が主成分）
------	--

今後の発展方向

前年度同様、全農とくしま、各JA、各農業支援センター、試験研究機関等と一体となり、ブロッコリーの産地拡大・強化を図っていきます。

推進上の喫緊の課題や新技術導入等について、関係機関と連携しプロジェクト活動を行います。

関係者からの声

- ・推進方法や病害対策など現状の共通課題に対し、情報交換会・研修会をより多く行ってほしい。
- ・ハウレンソウなどでも産地拡大・強化にむけた県域活動を行ってほしい。

農林水産総合技術支援センター高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922